

●モズが減っている原因

モズの姿を見て、スズメなどの他の鳥とどこが違うと思いますか？

そうですね。タカのような嘴(くちばし)が特徴的です。

モズは肉食で小動物を食べています。厳冬期には自分よりも体の大きなツグミなども狙うことが知られています。

そんなモズですが、じつは果実を食べることがあります。とくにハゼノキの果実が好きで、ときどき食べる姿が見られます。



モズは鋭い嘴を持つ。写真は雄



ハゼノキの果実を食べるモズ

谷津田で高い「キィーキィー キチキチキチ」と鋭く高い声が響きます。

モズの“高鳴き”です。

秋から冬にかけてのモズは、単独で縄張りを持つ習性があり、雄も雌も別々に縄張りを作ります。肉食なので餌の確保のために縄張りが必要なのです。

この時期の岡発戸の谷津では、かつてはもっとたくさんのモズの高鳴きが聞けました。モズも年々個体数が減っています。

その原因はどこにあるのでしょうか。今みなさんが見ている環境の変化から考えてみてください。一番の原因は、田畑が耕作放棄地となり、草地が年々増加していることです。モズの好きな環境は水田、畔、畑地、低い草地、低木等パッチ状の多様性のある環境がセットになっている場所なのですが、そのような環境がしだいに無くなりつつあります。

モズの声にはもう1つ“サブソング”と呼ばれるいろいろな鳥の声をまねた複雑なさえずりがあります。モズは漢字で“百舌鳥”と書くくらいで、ウグイス、ホオジロ、ツバメ、ヒバリ等いろいろな鳥のまねをします。

秋が深まるとモズの“はやにえ”が見られます。
いろいろな小動物が木のとげや又にかけられます。

はやにえを作る理由はいろいろな説があります。

- 自分の縄張りをアピールするため
- エサが獲れ過ぎた時に作る
- モズは足が発達しておらず、食べやすいように獲物を木の枝で固定する
- 冬の食糧不足に備えるため

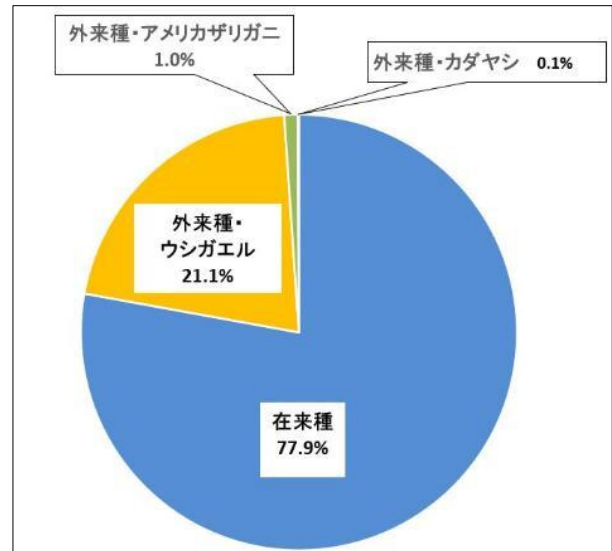
…などがありますが、

- さえずりの栄養源になっている

という説が有力です。



モズのはやにえ(アメリカザリガニ)



モズのはやにえにおける外来種の割合



12 月～1 月に、はやにえをたくさん作るとより歌声が魅力的になる(=健康な魅力的な雄)ので、ペアを作りやすくなるというものです。

市川市の大柏川第一調節池緑地での 2008 年～2013 年の調査では、はやにえ全体(1016 個体)の約 22%がウシガエル、アメリカザリガニ、カダヤシなどの外来種でした。

サシバの項目でもあったように、生態系に組み込まれた外来種や国内外来種の存在は時として個体数を減らしているサシバやモズなどの高次消費者にとって大切な存在になっています。このことを知るのは重要なポイントです。ナガエツルノゲイトウやアレチウリなど排除すべき外来種は多いですが、一概に外来種をすべて排除することが果たして良いことなのか、みなさんに考えてもらいたい問題です。

(越川重治)